118号
くまびょうNEWS
くまびょうNEWS
2007年4月1日

[発行所]
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501 (代)
FAX (096) 325-2519

新病院着工が間近になりました

旧厚生省から病院建て替えの許可が出てから、附属看護学校建築予定地の史跡調査での遺跡の発見や国立から独立行政法人への移行などで予定より大幅に遅れましたが、新病院建築計画が官報に掲載され、近く入札が行われることになりました。入札後は直ちに着工の運びになります。

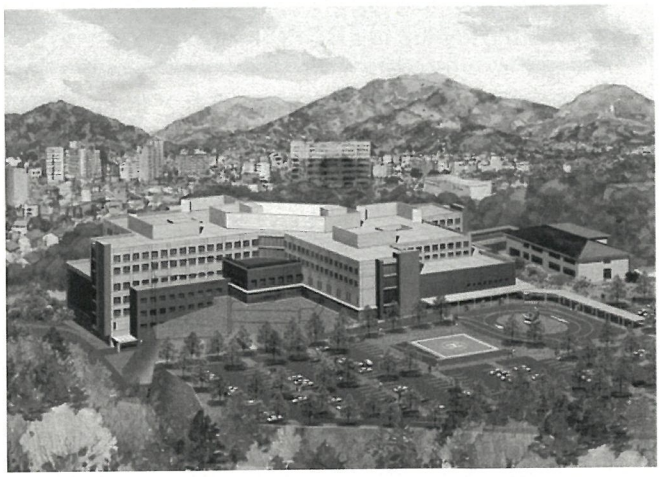
新病院は旧看護学校・医師官舎跡地の道路に近い位置が1階となる7階建で、延床面積は現病院の約1.9倍と広くなります。新病院は敷地内で西北の最も熊本城天守閣から離れた位置に建て、また高さも現在の病院より低くなります。1～3階は放射線治療・核診断部、給食、ボイラー・電気、医局、事務部門などになりますが、2階に地域医療研修センターがあり、ホールは今の1.6倍になり、天井は3階まで吹き抜けにして高くなります。

現病院の1階の高さが4階で、この階から建物が看護宿舎跡地まで拡がり、床面積が3階までと比べて約2倍になります。この4階に正面玄関があり、受付、外来、放射線診断部門、救命救急センターが入ります。5階から7階が手術センター、病棟になります。病棟は、これまで通り11病棟、550床ですが、一般病床の個室率は35%に増え、また4人室も36㎡と広くなり、患者様の入院環境が改善されるものと期待しています。

1階に歩行者用玄関を設け、ここからエレベーターで4階の外来に昇れますので、評判の悪かった「国立の坂登り」は解消されます。またエレベーターは計15機をそなえ、現在の長い「エレベーター待ち」も解消されると思います。4階に地域医療連携室、医療情報連携室、セカンドオピニオン室等を設置し、ハード面でも医療連携の充実を図ります。

早ければ4月末にも工事が始まり、2年半位で建物竣工の予定ですが、工事の最初に病院への坂道の改修工事があり、通院に迷惑をお掛けする事があるかもしれません。出来るだけ通行に支障のないよう工事現場と折衝します。また工事開始後は地域医療研修センター周囲に駐車は出来ませんので、地域医療研修センターにお越しの際も恐れ入りますが城内プール跡地駐車場のご利用をお願い致します。さらに竣工、新病院開院後、現在の病院を取り壊し、史跡調査をしてから、跡地を駐車場にしますので、院内に駐車場が出来るのはかなり遅くなります。登録医の先生方には大変ご迷惑をお掛け致しますが何卒ご理解、ご容赦下さいますようお願い申し上げます。

（副院長　池井　聰）



新病院完成予想図

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。
国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス http://www.hosp.go.jp/~knh/

熊本医療センターのスタッフの方々に
－日頃の感謝を込めて－

医療法人陽光会
上熊本内科
院長　山村定光

国立病院機構熊本医療センターは、熊本市の中心熊本城二の丸に位置し、高度先進医療、救急、地域医療に於ける連携、教育などの分野で、九州でもトップクラスの中核病院です。

創設は明治の世にさかのぼり、多くの熊本県民に親しまれています。又外国人医師、コメディカルを受け入れる国際基幹病院、教育研修病院としてもよく知られています。

そのような中で当院は、地理的に近いこともあり、昭和55年の開院以来、常々大変御世話様になっております。

私は昭和47年熊大医学部卒業後、熊大第一内科で、主に脳神経、筋疾患の臨床と病理に携わってきました。

現在当院では、内科、放射線科、整形外科等の専門医に非常勤で診療の応援をして頂いております。しかし、重症の救急症例、悪性腫瘍の手術依頼など内科系の医療機関としては、十分対応しにくい例も多々あるのが現状です。

日頃大変お世話になっています救急外来は、24時間万全の応召体制がとられております。その忙しさは（夜間救急車の台数の多さ等）、この3月まで研修医として御指導頂きました、不肖私の次女等より常々耳にしております。

これらの円滑な運営には、患者さんへ常に最高の診療を心がけておられる宮﨑久義院長の御指導の下、ひとえに医師を始めスタッフの皆様の昼夜に渡る献身的な御苦労によるものと思われ、まさに敬服の至りであります。

当院より貴院へ御紹介した患者さんが、元気になって、丁重な御返事を持参し、退院される際「良い病院へ紹介され、医師、スタッフの方にも良くして頂いた。」とのお礼を述べられることが多く、いつも感謝致しております。

今医療は大きく変革しており、地域の方々の為に地域の中核病院と、中小の医療機関との一体になったネットワーク作りの重要性が叫ばれております。

私共小規模の入院施設を有する医療機関とも、相互の信頼の上に症例の御教示、情報交換等、これまで以上に御支援下さいます様希望致します。

最後になりましたが、職員の方々のご健勝と今後の益々のご発展をお祈り致します。

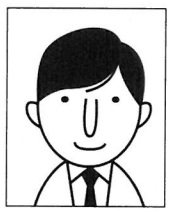
国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証は、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係（TEL 096-353-6501　内線390）までお申し込み下さいますようご案内致します。

写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、玄関前駐車場ゲートにて駐車券をお取り頂き、0番窓口（時間内）又は、時間外受付（時間外）にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

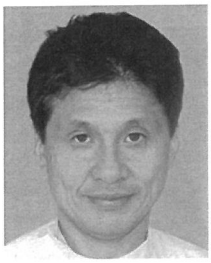
開放型病院登録医証



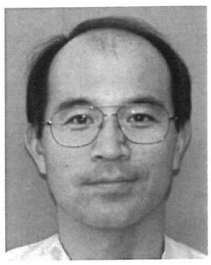
○○○医師会
熊本　太郎

平成19年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

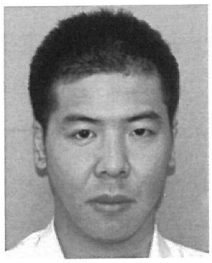
1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。



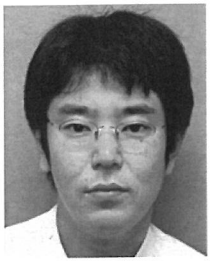
渡邉健次郎
精神科救急、リエゾン精神医学
統合失調症、うつ病
精神保健指定医



山下　建昭
統合失調症、うつ病
リエゾン精神医学、精神科救急
精神保健指定医



原田　正公
救急医療全般
統合失調症、うつ病



酒井　　透
精神神経科一般（精神科一般）

吉住　和晃
精神神経科一般（精神科一般）

診療内容と特色

50床の精神病床を有する総合病院の中の精神科という特徴を生かし、単科の精神病院や精神科診療所では対応困難な精神障害の患者さまを病診、病病連携を通じて積極的に受け入れています。特に入院では、精神障害と身体疾患を同時に有する合併症患者の治療を他科の先生の協力のもとに行っております。さらに、当院が救急医療に力を入れていることを反映して、精神科の救急患者も著明に増加してきており、特に最近急増してきている自殺未遂・自傷行為例については、身体面の治療と同時に精神的な対応を行っております。

診療実績

年間外来新患患者数：約1,000名
一日平均外来患者数：約70名
精神科関連救急外来患者数：2,296名
自殺未遂・自傷行為患者数：330名
身体合併症患者数（一般病棟入院も含む）：1,334名
精神科入院患者数（一般病棟入院も含む）：900名
平均在院日数：約20日

研究実績

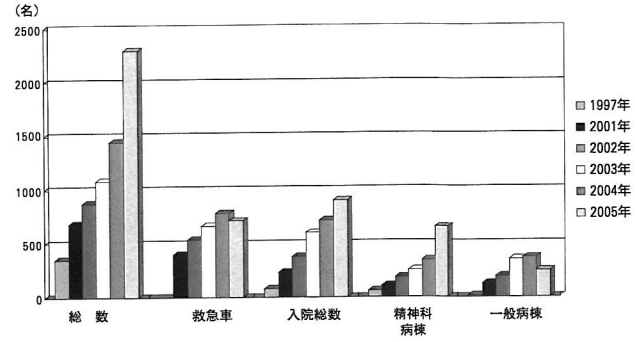
熊本県精神神経学会、精神科救急学会などへの研究発表を行っています。また、講演会を通じて精神科救急や、メンタルヘルス、うつ病などについての啓蒙を行っています。

ご案内

月曜から金曜日の午前中に診療情報提供書や、電話などでご紹介くださいますようお願いします。

救急症例の場合はいつでも結構です。

その他、お困りのことがありましたらいつでもご連絡ください。



当院における精神科救急受診者数の推移

新任職員紹介

整形外科
中馬東彦（ちゅうま はるひこ）

4月より整形外科に勤務しております中馬東彦と申します。福岡出身の熊本育ちで、熊本高校、熊本大学医学部を卒業しました。1995年に熊本大学整形外科に入局し、その後は公立玉名中央病院、八代総合病院で研修を積み、1998年より熊本大学大学院へ進学、「関節軟骨の再生医療」という壮大な研究テーマのもと、日々実験に取り組んでおりました。何とか無事に学位を取得しましたが、4年間ですっかり臨床が弱くなってしまいました。整形外科臨床医として復活すべく、2002年から5年間、荒尾市民病院で救急、外傷、関節外科を中心に勉強して参りました。しかし、ほとんど独学で積み上げてきた技術（手術）が標準的なものなのか常々不安があり、症例、医療スタッフが多い都市部の病院に勤めたい希望がありました。今回、念願がかなった形で本院勤務となりました。臨床医としての質を高めるべく、これまで以上に頑張っていきたいと思いますので、皆さんの御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。

消化器病センター
消化器科
片山貴文（かたやま たかふみ）

4月より消化器内科医として勤務することになりました片山貴文です。

1996年久留米大学卒業後、久留米大学第2内科に5年間勤務し、その後アメリカのボストンで癌の基礎研究を5年間していました。帰国後は人吉総合病院に約2年勤務し、その後熊本南病院に9ヶ月勤務、そして今回の赴任となっております。

久留米大学在学中より癌ワクチン（ペプチドワクチン）の研究開発に携わり、アメリカではp16, p14という細胞周期に関連した分子を通して、いかに正常細胞が癌細胞へと変化していくかについて研究してまいりました。帰国後は肝癌の治療、B型肝炎、C型肝炎の治療を中心に力を注ぎ、ようやく臨床に研究のアイデアを生かせるのではと感じ始めています。今後は肝胆膵の癌を中心に、癌の臨床を学んでいければと期待に胸を膨らませています。何かとご迷惑をおかけするとは思いますが、御指導、御鞭撻の程よろしくお願いいたします。

感覚器センター
眼　科
久高久美子（くだか くみこ）

4月よりお世話になることになりました久高久美子です。

1996年に琉球大学を卒業後、地元熊本に戻って参りました。眼科へ入局し、1年半大学病院で、その後、北九州市の小倉記念病院で1年勤務しました。結婚を機に、開業医の先生のところで数年間お世話になりました。

2004年に熊本城から北へ1.5km程のところに、主人が眼科医院を開業しました（以前に“くまびょう”でご紹介頂きました！）。その頃より、私も中断していた臨床研修を大学病院で再開しました。

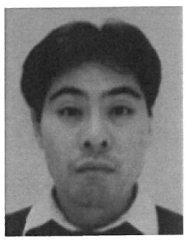
救急体制が整い、高度な専門医療を提供し、地域医療の拠点病院として重要な役割を果たす本院に勤務することとなり、身が引き締まる思いです。元々、熊本北部地域出身なので、本院には何かしらご縁を感じます。ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、早くスタッフの一員として十分な仕事ができますように精進して参りたいと思っておりますので、何卒宜しくお願い致します。

外　科
保坂征司（ほさか せいじ）

4月から勤務しております保坂征司と申します。

出身は福岡県久留米市で明善高等学校を卒業しました。

1997年に熊本大学を卒業し、同第一外科に入局しました。5年間の臨床の後、大学院へと進学し、腫瘍免疫および新たな分子標的治療法の開発について4年間基礎研究を行い、昨年度は熊本大学附属病院消化器外科及び熊本労災病外科に勤務の後現在へと至っております。大学病院の臓器別再編成に伴い、新たに消化器外科教室ができた経緯もあり、この度当院に配属となった次第ですが、新たに多くの先輩方から手術手技を学べることを嬉しく思っております。大学院卒業後は早く外科医として一人前になることを目標にしており、そういう点におきましても当病院は救急を含め外科手術も症例が多く、最新の手術手技も導入されており、たくさんの経験を積める病院であると認識しております。早くこの病院に慣れてお役に立てるよう頑張りたいと思っております。皆様にはご指導の程よろしくお願い申し上げます。



心臓血管センター
循環器科
鈴木達（すずき さとる）

4月より循環器科に勤務しています鈴木達と申します。

1998年に熊本大学を卒業し、同年に熊本大学医学部循環器内科に入局しました。以後、臨床業務に5年間従事した後、2003年から熊本大学大学院（循環器病態学専攻）に進学し、今年3月に卒業となりました。4月から、こちらで勤務していますが、4年間、循環器領域を含む臨床の第一線から離れていましたので、戸惑うことが多く、何かと皆様にも御迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願いします。

泌尿器科
仲西寿朗（なかにし じゅろう）

4月より泌尿器科に勤務することになりました仲西寿朗と申します。

福岡出身で、大学から熊本に参りまして早くも14年目となりました。2000年に熊本大学泌尿器科に入局し、熊本大学病院、熊本市民病院、高千穂町立病院にて研修後、2002年より再度、熊本市民病院にて勤務致しました。その後、2003年より熊本大学大学院に進学し、腎細胞癌や膀胱癌など泌尿器癌における腫瘍免疫などについて研究を行って参りました。この4年間は本格的な臨床の場から離れておりましたので不安もありますが、非常に症例数、手術数の多い当センターで勤務出来ることを大変幸せに思っております。

皆様方にご迷惑をお掛けすることも多いかと思いますが、やる気と体力で頑張りますので、御指導の程何卒宜しくお願い申し上げます。

精神神経科
吉住和晃（よしすみ かずあき）

4月より精神神経科へ勤務しております吉住和晃です。2004年4月より熊大病院の臨床研修医として内科、外科、麻酔科、救急等ローテーション研修を終えた後、2006年5月同院神経精神科へ入局しました。新研修医制度発足後の一期生であり、4月からは後期研修2年目に入ります。

精神科に入局してからの1年間は精神科疾患全般に対する精神療法、薬物療法を主に研修し、ほとんどが長期に渡る入院期間を要する患者様でした。当院は救急病院であり、目まぐるしく患者様が入退院され、非常に忙しい毎日だと伺っており気持ちを引き締め直しております。

当院精神・神経科は主に精神科救急を担っています。4月からは主に救急精神医学について勉強し、2年間のローテート研修の経験を生かし緊急時即時対応のスキルアップを目指していきたいと思っております。万事勉強と考え一生懸命頑張りますのでご指導の程どうぞ宜しくお願い致します。

小児科
伊藤華江（いとうはなえ）

本年4月より小児科レジデントとして勤務することになりました伊藤華江です。

高校入学まではおもに福岡県で過ごし、高校の途中で名古屋に引っ越し高校を卒業後、熊本大学に入学しました。以後は熊本に住み、今やほかのどこよりも長く熊本に住んでいることになりました。卒業後は熊本大学の総合臨床研修センターに入り、卒後臨床研修制度初年度として熊本大学附属病院、熊本赤十字病院などで2年間のローテート研修をしました。ここでは各科の先生方にご指導いただきながら、短期間のうちに数多くの経験をしました。

2006年4月より小児科に入局し、熊本大学附属病院、国立病院機構都城病院小児科で研修しました。小児科は守備範囲が広く、力不足を感じることばかりですが、指導してくださる先生方にめぐまれ毎日充実して過ごしています。小児科医としてほんのスタート地点にたったばかりであり、ご迷惑をかけることもあるかもしれませんが、よろしくお願い致します。

研修レポート

松尾智彦（まつおともひこ）

はじめまして。2006年4月より熊本大学附属病院Cプログラムで国立病院機構熊本医療センター研修医として赴任しておりました松尾智彦と申します。

4月からの半年は救急、麻酔科、外科で研修をさせて頂き、その後内科をローテーションしました。早いもので国立病院機構熊本医療センターでの研修も終了致しました。研修中は周囲の方には迷惑をかけてばかりで反省と勉強の毎日でした。しかし、患者様や指導医はじめ病院スタッフの方々の温かさに支えられて、非常に充実した毎日でもありました。

国立病院機構熊本医療センターでの研修において、非常に嬉しかったのは、各科の垣根が非常に低くあらゆる先生方にアドバイスを頂けたことです。これから医師を職業としていくにあたり、いろんな角度からのものの見方を勉強させて頂きました。

国立病院機構熊本医療センターで学んだ事を糧に日々精進して参りたいと思っております。

未熟者ではございますが、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

濵田昌平（はまだしょうへい）

2006年4月より国立病院機構熊本医療センターで初期研修をさせて頂きました濵田昌平と申します。2007年の3月まで大変お世話になりました。

研修中は、外科系（救急部、麻酔科、外科）と、内科は血液内科、神経内科、腎臓内科、代謝内科、呼吸器内科、循環器科をローテーションしてきました。初めはオーダリングもよく分からず、外科系だから手技をしっかり覚えようと思ったものの、ルート確保もままならない状態が続き苦労したことを思い出します。気管挿管や中心静脈カテーテル挿入、縫合など少しずついろいろな手技ができるようになり救急外来や患者様の急変時に、それを活かすことができました。内科系では、どの科も想像していたよりも忙しく、この病院に来たメリットだと思いますが、一般的な症例から珍しい症例まで、豊富な症例を経験させて頂きました。

指導医の先生方の丁寧なご指導のおかげで、徐々に医師として成長できているとは思いますが、まだまだ知識があやふやで手技もうまくいかないことが多く、これから一層の努力が必要だと痛感しております。

もう一度初心に戻って患者様との接し方、言動などに注意しなければならないと考えております。

国立病院機構熊本医療センターで学ばせて頂いた事を活かしながら一生懸命頑張りますので、今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

医学シリーズ No.143 皮膚科（No.6）

最近のトピックス

疥癬の内服薬治療 ーイベルメクチン

感覚器センター
皮膚科医長
加口　敦士

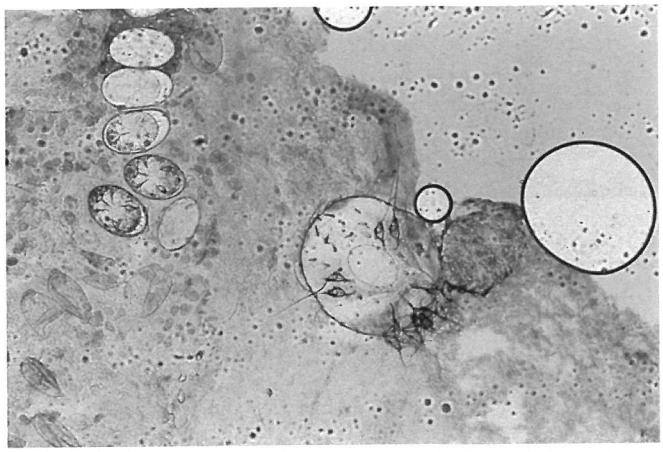
疥癬（Scabies）はヒゼンダニという目には見えないような小さなダニが皮膚に住み着いて激しい痒みを起こす皮膚感染症のひとつです。人から人にうつっていきますので流行があります。疥癬は約30年の周期で流行を繰り返しているといわれています。昔からある病気なのですがなかなか根絶できていません。

今年、日本皮膚科学会から疥癬診療ガイドライン（第2版）がでました。今回の改訂は、イベルメクチンという疥癬に有効な内服薬が日本で保険適応になったのを機会に行われたものです。以前わが国では著効する内服薬や外用剤が公に許可されていなかったために、種々の治療や民間療法などが行われているのが現状でした。今回はこの内服薬についてご紹介したいと思います。

疥癬はなかなか治らないといわれていますが、治らない原因のひとつに十分な治療が行えていないことが挙げられます。以前、疥癬の治療は外用剤しかなく、それも首から下の全身に、指のまた、皮膚のしわなど、塗り残しなくきちんと塗らなければなりません。塗り残した部分に疥癬が生き残ってしまうと治らないからです。外用剤は直接疥癬虫に接触してこそ効果を発揮できるのですから。しかしこれはなかなか大変です。それに対して、イベルメクチンは飲んで内側から効くわけですから、この問題点を解決できます。

イベルメクチンは静岡県伊東市川奈の土壌から採取・分離された駆虫剤で、日本では2002年、腸管糞線虫症に保険適応となり、「疥癬」に対しては2006年8月に保険適応となりました。内服は1週間に1回、それを2回繰り返すのが有効とされています。治療期間も短縮されるのが期待できます。しかしイベルメクチンも他の薬剤同様に万能ではありません。疥癬の親虫には効果がありますが、卵には効きません。また副作用として悪心・嘔吐などの消化器症状、血液検査での肝機能障害や白血球減少などが報告されています。海外では重篤な薬疹の報告もあります。また飲みあわせに注意する薬剤もあります。高齢者は心・腎・肝機能の低下しており、また合併症を有し、他の薬剤を併用している場合も多いので特に注意が必要です。

使用にあたっては十分な配慮が必要ですが、今回のイベルメクチンの保険適応により、疥癬の患者さまがよりよい治療が受けられようになったことは進歩といえます。



疥癬虫と卵

■原稿を募集致します■
登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。
送付先　〒860-0008　熊本市二の丸1-5
国立病院機構熊本医療センター　『くまびょうNEWS』編集室まで

国際医療協力

平成18年度
第3回『薬剤耐性病原体の実験室診断Ⅱ』研修コース終了報告

国立病院機構熊本医療センターは、国内唯一の国際医療協力基幹施設として、JICA（国際協力機構）、ACIH（国際保健医療交流センター）及び熊本県と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

2006年11月25日より「平成18年度第3回薬剤耐性病原体の実験室診断Ⅱ　集団研修コース」に8名が、当院の研修棟に宿泊しながら研修を行いました。

本コースは、開発途上国における感染症診断に関する中心的な役割を果たしているラボラトリーの上位及び中堅技術者に、耐性菌発現の環境、メカニズムからサーベイランスまで幅広く最新の知識を提供し、その知識をもとに日本の第一線の病院現場において検査室での具体的な検査方法、精度管理及び感染対策を学んでもらうことを目的としています。

当院では、主に検査科で実習を行っており3月24日まで滞在しました。　（前庶務班長　上園直仁）

【平成18年度 第3回『薬剤耐性病原体の実験室診断Ⅱ』研修コース】　2006.11.25～2007.3.25

写真	氏名（国名）	職業・所属等	写真	氏名（国名）	職業・所属等
	Mr. Loko Firmin Djidjoho ロコ （ベナン）	保健省 国立公衆衛生検査サービス査察官		Dr. Amarsanaa Amartuvshin トゥッシン （モンゴル）	国立モンゴル癌センター 中央検査部 検査診断医師
	Dr. Wu Xin Wei 呉新偉 ウー （中国）	広州市疾病管理予防センター ウイルス及び免疫部 副部長		Ms. Maria Gloria Centurion De Morinigo グロリア （パラグアイ）	保健・社会福祉省 公衆衛生中央研究所 細菌学研究員
	Ms. Shalini Pravin Singh シャリニ （フィジー）	保健省 植民地戦争記念病院 病理部 微生物検査室長		Dr. Grisel Rodriguez Cuns グリセル （ウルグアイ）	共和大学 国立火傷センター 微生物学 準教授 微生物検査科 科長
	Ms. Betool Hadi Mahdi ベトゥール （イラク）	保健省 薬剤管理及び研究センター 抗生物質評価科 科長		Mr. Joseph Chipinduro ジョセフ （ジンバブエ）	国立保健研究所 検査技師

研修のご案内

第211回　初期治療講座（会員制）
［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶2007年4月14日(土)15：00～18：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

「救急蘇生法　新ガイドライン」　座長　熊本県医師会理事　岡本　喜雄

1．なぜ心マッサージが強調されるのか　国立病院機構熊本医療センター救命救急部長　高橋　毅
2．新救急蘇生薬について 特にバゾプレッシンについて
国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・ICU室長　瀧　賢一郎
3．救急蘇生法実習　国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長　江﨑公明他

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第99回　月　曜　会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］

日時▶2007年4月16日(月)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1．胸部X線写真供覧　国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長　森松　嘉孝
2．持ち込み症例の検討
3．症例提示「検尿試験紙が偽陰性のため再発見が遅れたネフローゼ症候群の1例」
国立病院機構熊本医療センター腎センター長　富田　正郎
4．ミニレクチャー「救命蘇生治療に関するトピックス」
国立病院機構熊本医療センター救命救急部長　高橋　毅

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長　河野　文夫　TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第68回　三　木　会（無料）
（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］
［糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定］

日時▶2007年4月19日(木)19：00～20：45
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

座長　国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内科部長　東　輝一朗

情報提供：テルミサルタンの動脈硬化抑制作用について

一般演題：当科で作成した高血糖意識障害クリティカルパス使用についての検討
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科　児玉　章子

特別講演：1型糖尿病の新しい考え方
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内科医長　豊永　哲至

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科　豊永　哲至・東　輝一朗　TEL 096-353-6501（代表）内線796

第86回　総合症例検討会（CPC）
［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶2007年4月25日(水)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

テーマ：化学療法中に急激な発熱意識障害を来した1例　（症例40歳代　男性）
臨床担当）国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科　武本　重毅
病理担当）国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理室長　村山　寿彦

「急性骨髄性白血病に対する自家末梢血幹細胞移植を計画し、このための末梢血幹細胞採取目的で入院となった。化学療法16日目に発熱、そして意識障害が出現し、翌17日目に死亡された。」

＊臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

2007年 研修日程表 4月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

4月	研修ホール	会議室	その他
2日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
3日(火)		18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
4日(水)			17：00 消化器疾患カンファレンス C
5日(木)			7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
6日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
9日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
10日(火)		18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C 19～21 泌・放射線科合同ウログラム C
11日(水)			17：00 消化器疾患カンファレンス C
12日(木)	18：30～20：00 病薬連携研修会		7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
13日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
14日(土)	**15：00～18：00 第211回 初期治療講座《会員制》 ［日本医師会生涯教育講座5単位認定］** **座長 熊本県医師会理事 岡本 喜雄** **「救急蘇生法 新ガイドライン」** **1．なぜ心マッサージが強調されるのか** **国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 高橋 毅** **2．新救急蘇生薬について 特にバゾプレッシンについて** **国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・ICU室長 瀧 賢一郎** **3．救急蘇生法実習 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江﨑 公明 他**		
16日(月)	**19：00～20：30 第99回 月曜会（内科症例検討会）** **［日本医師会生涯教育講座3単位認定］**		8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
17日(火)	19：00～20：30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
18日(水)			17：00 消化器疾患カンファレンス C
19日(木)	**19：00～20：45 第68回 三木会** **（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）** **［日本医師会生涯教育講座3単位認定］** **［糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定］**	19：30～21：00 有病者歯科医療研究会	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
20日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
21日(土)	**13：30～17：00 第69回 ナースのための救急蘇生法講座〈会費制〉** **講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江﨑 公明 他**		
23日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
24日(火)	18：30～20：30 血液研究班月例会	18：00～19：30 血液病懇話会（図） 19：00～21：00 小児科火曜会	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
25日(水)	**19：00～20：30 第86回 総合症例検討会（CPC）** **［日本医師会生涯教育講座5単位認定］** **「化学療法中に急激な発熱意識障害を来した1例」**		17：00 消化器疾患カンファレンス C
26日(木)	18：30～21：00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19：00～21：00 熊本脳神経疾患懇話会	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
27日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
28日(土)	**13：30～16：30 第106回 看護卒後研修〈会費制〉** **「院内感染防止」 国立病院機構熊本医療センター感染管理認定看護師 吉田真由美**		

（図）図書室　C 病院本館2階カンファレンス　手 手術室控室　別6 別6病棟　外来 小児科外来　M ミーティングルーム

問い合わせ先　〒860-0008 熊本市二の丸1番5号　国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501（代）内線263　096-353-3515（直通）